【知事定例記者会見】　５月19日

● まもなく出水期　豪雨に備え、人命を守ることを第一に取り組んでいます

ここ数年、佐賀県は毎年豪雨に見舞われている。昨年、気象台から北部九州は南九州と同じ状況だと指摘された。１時間20ミリ以上の降雨の回数が、鹿児島並みに増加している。これまでの気象条件と異なる降水状況を前提とした準備を進める。

大雨特別警報は、当初「数十年に一度」と言われていたが、４年連続で発令されている。４年前は、筑肥線が線路際まで表層崩壊。富士町も表層崩壊した。３年前は、大町の浸水と油の流出。武雄の長崎自動車道横で表層崩壊し、高速が一時ストップした。２年前は、祐徳神社横の崩壊、太良のオレンジロードが土砂被害。昨年は、武雄等で内水氾濫。嬉野の茶畑を中心に、大舟地区などで被害を受けた。

豪雨の発生を前提に、「プロジェクトＩＦ（イフ）」を立ち上げ、被害軽減対策を進めている。

対策例１　河川のしゅんせつを行っています

県内117か所、うち約50か所は、出水期までに完了する予定。掘り返して土砂を除去、水深を保ち水流を確保する。

対策例２　６月から田んぼダムの運用を開始

田んぼの排水口に調整板を常設する。大雨時に水路への水の流出を抑制し、田んぼがダムの役目を果たす。量にして、小学校の25メートルプール4,000杯分に相当する。内水氾濫する上流部の農家の理解を得て、順次設置する。

調整板は、佐賀の間伐材を使用。６月10日に武雄でキックオフイベントを開催する。

対策例３　６月に排水ポンプ車を５台導入します

これまで、国のポンプ車を借りていたので時間がかかっていた。機動的に対応するため、県単独で５台購入する。佐賀市、鳥栖市、唐津市、伊万里市、武雄市の５つの土木事務所に配備。事務所ごとに随時訓練を実施し、出動に備える。

ポンプ車は１台で毎分30立方メートルの排水能力がある。通常、25ｍプールの栓を抜くと半日かかるが、10分間で排水できる。河川の流量を確認後、内水から排水する。

６月８日に県庁で納車セレモニーを開催したい。

対策４　５月から浸水センサーを順次設置します

県内250か所に浸水センサーを設置。さらに道路監視カメラも設置し、内水・氾濫の情報を把握する。市町と情報共有し、避難指示等に活用する。

道路監視カメラは、緊急時に使用するなどルールづくりを含め対応を図っている。

消防防災ヘリ「かちどき」が駆けつけます

迅速な情報収集・状況把握や要救助者の救助に運用している。また、７つの離島すべてにヘリポートが完成した。

最近の活動は、15日に唐津市の十坊山（とんぼやま）で要救助者を搬送。16日には、富士町で山岳救助し、好生館に直接搬送。近隣県での救助や消火活動に活躍している。

県民の皆様へ、日ごろから災害への備えをしてください

自宅周辺のハザードマップで、浸水リスク、避難場所の確認、避難用品のチェックをお願いする。子ども・高齢者がいる場合の備えなどを周辺地域の皆さんと考えるのも大事なこと。

警戒レベル４までに危険な場所から全員避難

避難場所は、公民館や小・中学校のほかに、安全な親戚や知人宅、安全なホテル・旅館、さらに屋内安全確保も避難の一つ。自宅からの避難が難しい場合は、２階に避難する。普段から、どのような場合にどう行動するのかを話し合ってほしい。

気象庁では、６月１日から線状降水帯の予測が開始されます

半日前に予測し公表される。予測範囲は、九州北部など全国11地域。

昨年の武雄、大町を中心とした豪雨災害で死者が出なかったことが励みになっている。これからも命を守ることを第一に、皆さんとともに力を合わせて対応したい。

● 産業ＤＸ推進のフロントランナー　～佐賀県の取組みについて～

佐賀県は、全国に先駆けて、県内企業のＤＸを進めています

４年前に佐賀県産業スマート化センターを開設し、民間企業のノウハウを最大限に活用。全国230社のＩＴ系協力企業ネットワークによる、他県に追随を許さない強固な支援体制がある。協力企業によるセミナー、ニーズに応じたマッチング、ワンチームになって相談者を個別に支援する。

センター利用者数は、この４年間で急増

利用者数が増えるにつれ協力企業数も増え、双方に良好な関係が築けている。利用者の声には、「普段知り合えないＩＴ企業と縁ができた」「ワンストップで情報が得られた」などがある。自社で、どのようなＤＸの効果があるのか知るためにも、ぜひご活用いただきたい。

業務変革に成功する企業が続々登場

具体例を３例紹介する。

白石町の例は、育児と仕事を両立したい事務職員が、クラウドを活用し、８時間の作業を30分でできるようになり、リモートワークの実現につながった。

有田町の碍子の会社が、画像認識で検査を自動化。ＩｏＴで工場のデータを取得・共有し、検査時間が半分に減少。併せて、社員自ら改善を提案できる組織に生まれ変わった。

吉野ヶ里町のKITS（キッツ）ラインは、ハンディーターミナルやボイスピッキングでペーパーレス化。誰でもできる作業になり、残業も大幅に削減された。

ＤＸ“佐賀型”支援①　今年は“待つ”のでなく“外に”打って出ます

ＤＸコミュニケータは、ためらっている企業や気づいていない企業に、ＩＴの専門企業が年間 1,000 社訪問し、センターへつなぐアウトリーチ型支援。

ＤＸアクセラレータは、相談案件のうち、モデル的な事例を年間 10 社選定し、３～６か月に渡って伴走支援する。すべての事例をサイトに掲載し、他企業の参考にしても

らう。新規参入を促し、加速する企業を紹介し共有する。

ＤＸ“佐賀型”支援②　社内ＤＸの担い手をさらに養成

社内ＤＸの担い手を養成する。「Samurai（サムライ）」と名付けたＡＩプログラミング人材育成で、Python（パイソン）を習得する。令和２年、３年も応募が多く、今年も継続する。

ＤＸ即戦力人材育成（非ＩＴ企業）は、プログラミングをせずに使用できる業務効率化ツールを習得する。既存のクラウドサービスを使用し、ＤＸの恩恵を受ける形。４か月で定員 100 名を募集。「Ninja（ニンジャ）」と名付けた。

ぜひ一緒に、まずはチャレンジしてみませんか

５月 25 日に、スマート化センター交流会を開催する。「Samurai」と「Ninja」の受講生を６月 24 日まで募集中。ＤＸをビジネスの常識にしていく。

● ５/26（木）SAGAスタジアムが全面リニューアルオープンします

全天候型ウォーミングアップ走路を増築し、日本陸連の第１種公認を取得する。世界陸連の class２も取得予定で、新記録が出ればワールドレコードとして認定される。

26 日はオープニングセレモニーを開催し、27 日から高校総体陸上競技の会場として活用する。

● 全国初コラボ　JR佐賀駅でヘルプマークをいつでも受け取れます

佐賀県のヘルプマーク配布数は九州一。さらに普及するため、JR佐賀駅の協力のもと、みどりの窓口で配布する。５月 30 日にヘルプマークの交付式を行う。外から見えない困りごとを周りが支えていく“さがすたいる”を進めていく。

● THE RAIL KITCHEN CHIKUGO×SAGA　運行決定

佐賀県は、筑後圏域との連携に力を入れている。西鉄の列車で、天神駅から大牟田駅まで、気鋭のシェフによる地元の食材と器で贅沢ランチができる観光列車を運行する。下車後は、貸し切りバスで周遊ツアーも企画。

６月２日にはメディアプロモーションを開催する。

● コロナ対策

佐賀県の感染者数は、緩やかな減少傾向。現在、５日連続で減少している。オミクロン株は重症化リスクも低く、陽性者数に対して病床使用率が低い。今日は10%台になる見込み。

改めて、医療従事者、現場の皆さん方、感染症対策に取り組む県民の皆さん方に感謝を申し上げる。